農業後継者育成基金事業

令和２年度農業後継者特別支援事業

事業主体名　　霧島市立国分中央高等学校

１　目的

一昨年（平成 30 年度）から国分だいこんの栽培を実施したところ，形質にばらつきがあり，発芽率も低く，作りにくいことが分かった。また，地域特有の伝統野菜ということが地域住民に知られていないことも分かった。さらに，国分だいこんは桜島大根のルーツと言われており，昨年の報道で注目された桜島大根特有の機能性を有している可能性がある。

そこで，昨年度（令和元年度）は種子を自家採取し，有用種の固定化を図る取組をすると同時に地域住民に親しまれる野菜になるような活動を実施した。

本研究の目標「多くの方々が国分だいこんの存在を知り，地域の伝統野菜を食べて，健康になる！」をたち成できるように，今年度は，より深みのある取組を行うことにした。

２　実施状況

⑴　国分だいこんの自家採取（４～６月）

安定的な種子生産方法を検討するために，国分だいこんの系統を変化させた種子量の調査を行った。根部の色が赤(赤系統)と白(白系統)に分け，それぞれ簡易ハウスの中で交配を行った。また試験区として，自然交配による採取も行った。

その結果，自然交配の種子量が最も多く，白系統×白系統の種子量が最も少なかった。

写真１　国分だいこんの採種

⑵　国分だいこんの栽培試験（８～３月）

昨年の栽培試験から得られたデータをもとに，９月中旬～10 月中旬播種における栽培試験を実施した。自然交配から得られた種子を使用し，栽培様式は畝間 150 ㎝，株間 50㎝，2 条植え，無農薬無肥料栽培とした。追肥は油粕 100kg/10a 施肥した。

この結果，９月中旬～下旬に播種したものは，アブラムシの被害が大きく，収量が極端に減少した。その影響で根部も小さくなった。10 月上旬～中旬播種は病害虫の被害が少なく順調に成長した。

国分だいこんと桜島大根，青首大根の違いについても調査した。播種は 10 月 16 日に行った。その結果，目標根重がそれぞれ異なるが，青首大根は約 90 日，国分だいこんと桜島大根は約 120 日必要であった。

写真２　国分だいこんの栽培試験

⑶　視察研修

桜島大根の栽培現場等を視察した。

研修先　鹿児島都市農業センター，県農業開発総合センター，地域農家

写真３　鹿児島都市農業センターへの視察

３　今後の課題

雄株と雌株の系統を工夫した採種方法を検討し，採取量や親株の違いによる収穫物の変化について検討する。国分だいこんの復活を目指し，更なる普及活動を実践していきたい。